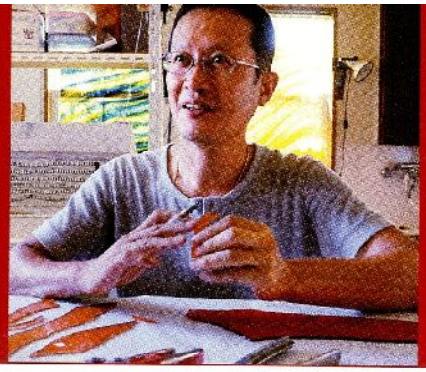

ふくたかつし
福田勝司
Katsushi Fukuta

ごあいさつ

この度、龍ケ崎市民文化芸術フェスティバルの伝統ある郷土作家展に、同運営委員会のご推薦により出展させて頂くことになりました、福田でございます。私は龍ケ崎市民の仲間に入れて頂いて、まだ12年の新参者ですので、誠にせん越かつ身に余る光栄に思っています。私が住みますニュータウンは古代の遺跡が数多く発掘され、さらには無形民俗文化財の撞舞をはじめとする文化や歴史があり、牛久沼や田園風景など、自然豊かなこの街の住人であることを誇りに思っています。なにより住みやすいこの街を愛しています。今は私のふるさとである龍ケ崎で、晴れの舞台を踏ませて頂けます事を、心から感謝申し上げます。

12年前、ここ龍ケ崎に来て、市民の皆様のステンドグラスに対する関心が高いことには少し驚きを感じました。市内にカガミクリスタルさんもあり、創意工夫された各種の美術工芸作品が展示される機会が多く、芸術に親しんでいる街といった感もあります。

今回の展示では、私が追求してきた和風やモノトーンのステンドグラス作品に加え、フュージング画（無鉛ステンドグラスとして開発）という、絵画性をより追求した新しいガラス工芸の作品も出展させて頂きます。是非、目の肥えた皆様にご高覧を頂き、ご批評を賜れればと思います。そしてこれを糧に、今まで以上に地元の作家・職人として認知して頂けるよう精進してまいりたいと思います。

福田勝司（ガラス工芸家）

略歴

昭和38（1963）年	東京に生まれる。
昭和42（1967）年	神奈川県藤沢市に移る。幼少から絵画、造形に凝りだす。なににおいても「自作」にこだわり、マイコン、模型、家具、機械など、自分で設計し廃材を利用して、作れるものは全て買わずに作る少年時代。今で言う「自作オタク」。
平成1（1989）年	横浜国立大学工学部修士終了。電機メーカー入社。 ポスターコンクールで数度入賞および優勝。
平成8（1996）年	茨城県つくば市の千勝神社の非常勤神主、翌年から世話人。
平成9（1997）年	ステンドグラスを始め、将来プロになることを決意する。
平成10（1998）年	公募ステンドグラス美術展　出品（名古屋）。 日本家屋に合う、色を多用しないステンドグラスを模索し始める。
平成11（1999）年	電機メーカー退職。グラス工房達風（たっぷう）を設立し、独立。
同年	内山雨海の高弟、鈴木桂石に師事し、以前から興味と憧れを抱いていた墨画と書を始める。後に、福田流和風ステンドの原画手段として活用。
同年	茨城県龍ケ崎市に移転。
平成12（2000）年	フランス遊学（アトリエマツダでの研修と、フランス各地のステンド見学）。
同年	個展（東京都銀座）。
平成13（2001）年	三人展（東京都国立）。
平成14（2002）年	個展（茨城県龍ケ崎「ギャラリーサロン邑」）。
同年	2002日本現代ガラス展・能登島（ステンドグラス作品として唯一）入選。
同年	第1回ステンドグラス美術展　入選（名古屋）。
平成15（2003）年	個展（千葉県我孫子）。
平成16（2004）年	第2回ステンドグラス美術展　入選（名古屋）。
平成17（2005）年	個展（茨城県龍ケ崎）。「どらすて」での地元作家第1号の開催。
平成19（2007）年	フランスのステンド工房を視察。帰国後、無鉛ステンドグラスの制作設備を開発し、その工芸手法を「フュージング画」として、作品制作を開始。
平成23（2011）年	C.Cohen,"THE GLASS ARTIST'S HANDBOOK",Quarry Books 掲載。

過去のほとんどの作品写真が載っているサイト http://www.tappu.com/　もご覧ください